

(参考) 資料：『上田県近現代史研究会 郷土郷土ものがたり』(郷土郷土を築き支えた人々) 上田市・上田市博物館
『郷土 製糸・製糸』阿部昌徳が編『郷土信州上田の近代』中沢茂樹『蚕糸 蚕屋外史』長谷川昌『市街経済と共同性』
酒井敏次『絹糸紡績資料館の経緯』上田東高松100周年記念事業特別展『郷土上田と三才絹、信州大学繊維学
100周年記念展』上田市誌『丸糸物語』『郷土日記』『菅平原物語』『東部日記』『長門日記』『和田村日記』『青木村
田小島日記』『長野県史』・雑誌『蚕糸』・魚井幸喜亭氏が編『世界年表』・地図(図説) 講座：西部公民館・蚕糸博物館講
うた物語Ⅱ』上田自由塾『2011上田おもてし近現代史講座』・日本シルクロード学会が企画2 郷土郷土
協力：佐藤勇二さん(藤本蚕糸製織所)、田中和夫さん、渡辺道成さん、小林武彦さん、鹿牧湯温泉泉藤ホテル
市立博物館、上田市立図書館、上田国際光栄文化アライアンスの会、富岡製糸場(富岡市役所) HP、その他：『郷
土放送局』、『信州ガイド』・上田市上り丸糸郷土博物館HP『上田市文化財マップ』・文化庁|国指定文化財等データ
基：経産省近代化産業遺産の普及・啓発、群馬県生糸学習センター(関東絹の道)、上田市役所「別所線にの
る」鉄道遺産文化館HP、kigokochi、YES UEDA 上田ガイド」・「真田史

りました。日本の生糸輸出は数年で半減し、元になる蚕種も販売量を減らしてゆきの面影を街並みにとどめ「蚕都上田」の伝統は継承されているのです。

ます。そして現在、なお往時の面影を街並みにとどめ「蚕都上田」の伝統は継承されているのです。

輸出されました。

がそこで働きはじめました。生産された生糸は、今度は米国

ります。江戸後期、信州上田は、蚕種的一大産地としても有名になっていました。

を續（つむ）ぐことの意義を説いたものです。